

事業年度 基準日	毎年4月1日から翌年3月31日まで 定時株主総会 3月31日
配当金受領株主確定日	期末3月31日 中間9月30日
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒541-8502 大阪市中央区伏見町3丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話（通話料無料）0120-094-777
公告方法	電子公告 当社ホームページ（ http://www.tocalo.co.jp/ ） に掲載します。
単元株式数	100株

- （ご注意）
- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
 - 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
 - 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。



第62期 中間報告書

平成24年4月1日 ▶ 平成24年9月30日



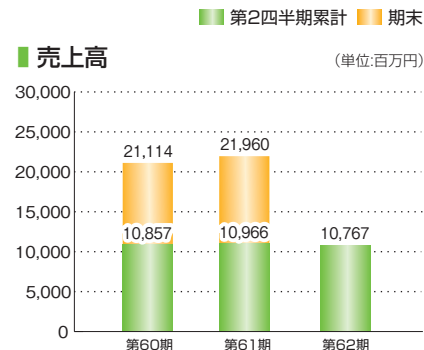
代表取締役社長 町垣 和夫

株主の皆様には、当社に格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

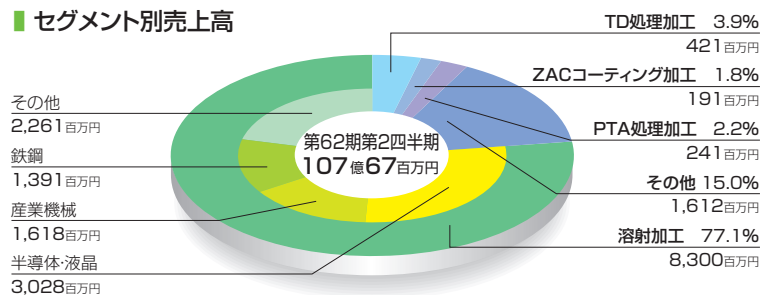
わが国経済は、東日本大震災からの復興需要や個人消費の持ち直しにより景気は緩やかな回復傾向にありますが、欧州の財政・金融問題の影響に加え、新興国での輸出及び内需の拡大が鈍化したこと、並びに歴史的な円高や電力不足懸念など不安要素も多く、依然として厳しい状況のまま推移しております。

このような状況において、当社グループは収益確保のために経営方針である「研究開発主導型企業」として、新たな商品、皮膜開発に努めると共に「全天候型経営」を目指し、積極的な営業展開を図ると共に、生産の効率化や新たな表面改質技術の開発に取り組んでおります。

今後も引き続きご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



■ セグメント別売上高



上期業績について

当連結会計年度第2四半期の当社グループ業績は、国内における溶射加工の落ち込みを溶射周辺部門と連結子会社が補う状況となりました。

主力の溶射加工部門の売上高は前期比95.5%の83億円となりましたが、各分野別の売上状況は次のとおりです。

<半導体・液晶分野>

半導体関係は、半導体メーカーの低調な設備投資の影響を受け、新規装置用パーツの需要は大きく落ち込みました。しかし、微細化対応向け新皮膜の評価が良く、置き換え需要が伸長し、半導体関係の売上高は前期比98.2%の27億19百万円となりました。一方、液晶関係は新規需要が極端に落ち込んでおり、売上高は前期比42.4%の3億9百万円となり、半導体・液晶関係の合計売上高は前期比86.5%の30億28百万円となりました。

<産業機械分野>

産機鉄鋼関係は、新規鉄鋼設備向けロール等が増加したことにより売上高は前期より大幅に増加しました。しかし、産機ベアリング関係は中国向けが低調に推移し、産機エネルギー関係はNASバッテリー関連の受注が停止し、回復が遅れております。その結果、産業機械分野の売上高は前期比91.2%の16億18百万円となりました。

<鉄鋼分野>

高炉メーカー向け受注は前期と比べると若干のマイナスでありましたが、電炉メーカー向け、並びに鉄鋼その

他が増加となり、鉄鋼分野の売上高は前期比102.7%の13億91百万円となりました。

<その他分野>

液晶ガラス関連向けが好調なガラス・窯業や現地加工の受注が好調であった紙パルプが前期より増加し、鉄線・銅線並びに石油化学は減少しましたが、合計では前期比109.6%の22億61百万円となりました。

次に、溶射周辺部門と連結子会社の状況については、溶射周辺部門の売上高はTD処理加工部門は前期比100.4%の4億21百万円、PTA処理加工部門は前期比110.9%の2億41百万円、ZACコーティング加工部門は前期比66.4%の1億91百万円となりました。

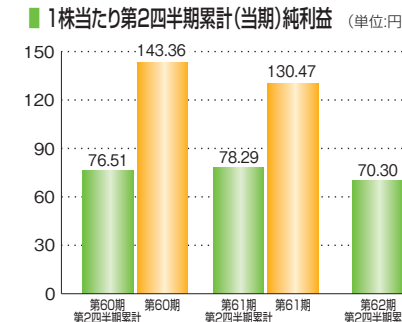
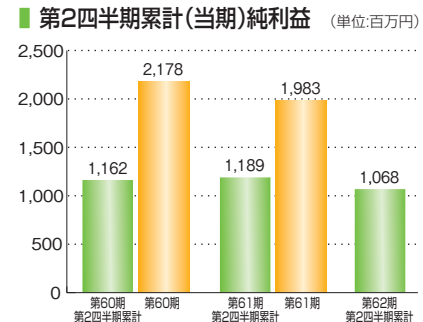
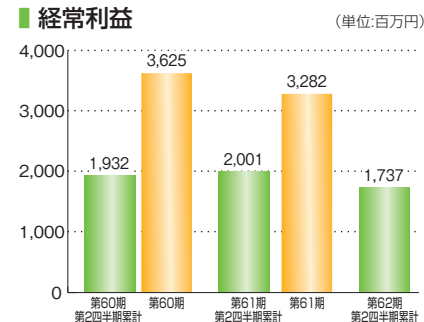
連結子会社は、日本コーティングセンター株式会社が、自動車関連の回復により前期に比べて業績を伸ばした他、東華隆（広州）表面改質技術有限公司は石油掘削用のバルブ部品や鉄鋼ロールの受注が好調に推移しました。また、漢泰国際電子股份有限公司の実績が6カ月計上（前年同期は3か月計上）となり、連結子会社の売上高合計は前期比119.7%の16億12百万円となりました。

以上により、当第2四半期連結累計は売上高107億67百万円（前期比98.2%）、経常利益は17億37百万円（前期比86.8%）となりました。

なお、この実績値は平成24年5月10日発表の期初予想を上回る結果となりました。

<売上高期初予想比105% 経常利益期初予想比134.8%>

■ 経常利益



今期の業績見込みについて

日本経済は超円高の定着、電力不足問題、更には、中国における日本製品の不買運動の広がりに対する懸念など、景気の先行きへの不透明感が増しつつあります。

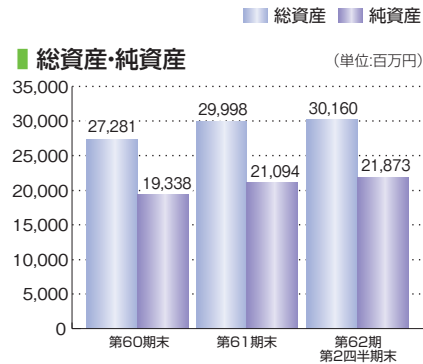
当社グループを取り巻く経済環境も厳しさをみせており、半導体・液晶製造装置関連は、パソコン需要の伸び悩みから大手半導体メーカーの新規設備投資の延期や中止が相次いでおり、需要が低迷しております。また、鉄鋼関連も世界景気の低迷と設備過剰による鋼材需要の減少と価格の低下により、競争が激しくなっています。

当第2四半期の当社グループ売上高、経常利益は計画数値を上回っておりますが、先行き見通しが不透明なことから、当期末業績については期初予想のとおりとします。

なお配当金につきましては、期初発表のとおり1株当たり年間で40円（中間配当20円・期末配当20円）を予定しております。

今後の取り組むべき課題

ここ数年、力を入れてきました海外での事業展開はようやく軌道に乗りつつありますが、国内については、過去に経験したことがないようなマーケットの縮小に直面しております。そのため、新規需要の開拓や新皮膜を市場投入してきましたが、マーケット縮小による落ち込みを十分にはカバーできていません。

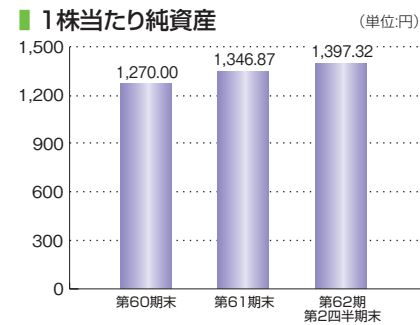


このように企業環境は今、大きく変化しようとしており、この環境変化にスピーディーかつ柔軟に対応できる考え方や体制が求められております。そこで、期初に溶射技術開発研究所の機構改革を行い、開発力の強化を図りました。その成果の一端は先日発表した、放射線遮蔽・環境調和性コーティングの開発などに既にあらわれてきています。

今年度は「No.1 & Only 1 技術・サービスの創造で世界をリード」を研究開発の基本方針とし、数多くの開発テーマに鋭意取り組んでおります。

また、当社は本年タイ王国にて合併事業を開始することを決め、現在来年4月の開業を目指し、準備を進めております。この事業はタイ王国にて生産拡大する自動車会社の現地調達要請に応える鉄鋼メーカーに対するコーティング・サービスを主に行うためであります。今後も収益源の多様化のためグローバル展開を図ってまいります。

当社グループを取り巻く国内外の経済環境は新興国の景気減速、欧州債務問題の再燃等を背景に、先行き不透明な状況が続くものと考えますが、顧客の期待成果とニーズを的確に把握し、それに見合うコーティング・サービスを提供することにより、顧客満足度を充足し、収益の拡大に努めてまいります。



タイ王国での合併会社設立について

タイ王国は、東南アジアにおける工業製品の生産拠点であり、近年は家電、自動車関連が目覚ましく発展しています。産業の発展に伴い重要な素材である鉄鋼の需要が伸びており、この機会に当社は同国に進出して鉄鋼関連の表面改質ビジネスを展開することとしました。

設立会社の概要

名 称	：ナイス&トーカロ・タイランド株式会社
設 立	：平成24年10月
資 本 金	：1億タイバーツ（約2億5千万円）
ナイス株式会社（本社：兵庫県尼崎市）との合併会社	
出資比率	
ナイスグループ	51%：トーカロ株式会社 49%

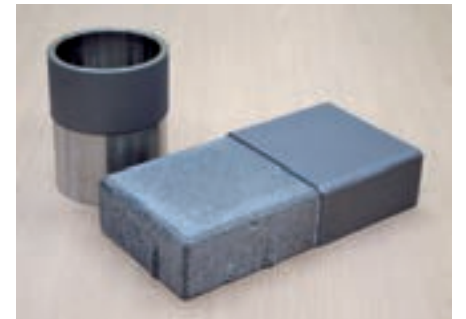


現地での地鎮祭風景

放射線遮蔽コーティングの開発について

このたび当社では、放射線（ガンマ線）遮蔽力が高いコーティング技術【タングステン含有皮膜】を開発しました。この皮膜のガンマ線遮蔽力は鉛板の1.4倍になり、鋼材やコンクリート、プラスチックなどの表面にコーティングすることが可能です。さらに、必要に応じて耐水性・耐食性や耐摩耗性に優れた皮膜を開発しています。このような特性から、福島第1原子力発電所の事故により発生した放射性汚染物質を長期保管する容器の遮蔽能力や耐久性の向上、また、解体できない構造物や保管施設からの放射線漏えい防止対策としての適用が期待されます。

その他にも、各種放射線装置（工業用検査、フィルム表面改質、医療用診断・治療、医薬・商品・化粧品・食料品の滅菌処理など）や各種放射線作業（γ線、X線、電子線など）における放射線遮蔽部材への適用などへの幅広い適用が可能です。



ステンレスパイプとコンクリートブロックへのプラズマ溶射サンプル品
（表面が黒い部分が放射線遮蔽皮膜）

四半期連結財務諸表

Quarterly Consolidated Financial Statements

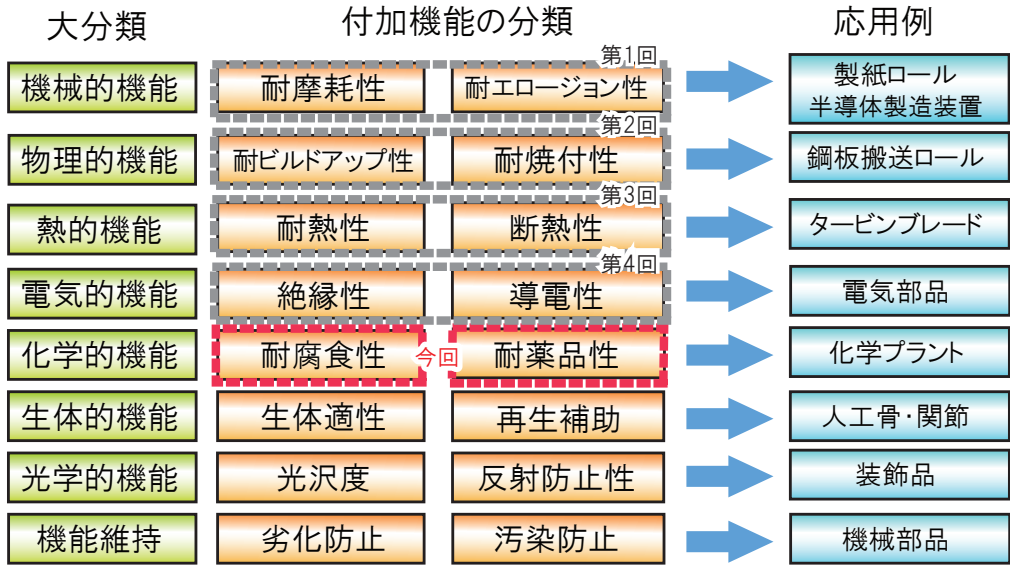
四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	第62期第2四半期末 平成24年9月30日現在	第61期第2四半期末 平成23年9月30日現在	第61期末 平成24年3月31日現在
(資産の部)			
流動資産	17,867	16,013	17,899
現金及び預金	8,491	7,336	8,506
受取手形及び売掛金	7,330	6,885	7,558
仕掛品	549	482	481
原材料及び貯蔵品	961	752	806
その他	615	564	624
貸倒引当金	△80	△8	△78
固定資産	12,292	12,644	12,099
有形固定資産	11,402	11,623	11,174
建物及び構築物	4,514	4,764	4,679
機械装置及び運搬具	1,999	2,533	2,298
土地	4,305	3,648	3,630
その他	583	676	566
無形固定資産	533	593	551
投資その他の資産	356	427	373
資産合計	30,160	28,657	29,998

1

科 目		第62期第2四半期末 平成24年9月30日現在	第61期第2四半期末 平成23年9月30日現在	第61期末 平成24年3月31日現在
(負債の部)				
流動負債		6,892	6,391	7,200
支払手形及び買掛金		3,053	2,625	3,070
短期借入金		516	506	503
1年以内返済予定長期借入金		430	230	430
未払法人税等		637	755	599
賞与引当金		600	572	599
2	その他	1,654	1,701	1,996
固定負債		1,393	1,568	1,703
3	長期借入金	415	346	630
退職給付引当金		736	839	785
その他		241	382	286
負債合計		8,286	7,960	8,904
(純資産の部)				
株主資本		21,329	20,076	20,565
資本金		2,658	2,658	2,658
資本剰余金		2,293	2,293	2,293
利益剰余金		17,150	15,896	16,386
自己株式		△773	△773	△773
その他の包括利益累計額		△91	△31	△94
その他有価証券評価差額金		△32	△16	△7
為替換算調整勘定		△59	△15	△86
少数株主持分		635	652	623
純資産合計		21,873	20,697	21,094
負債及び純資産合計		30,160	28,657	29,998



耐腐食性・耐薬品性とは？
（腐食現象とは何か）

表面処理による付加機能の分類から当社のアプリケーションを紹介するシリーズの5回目は、**耐腐食性、耐薬品性**です。このテーマは「金属の腐食現象」と「金属表面改質と耐薬品性・耐腐食性改善」の2回に分けて説明します。

金属の腐食とは、金属が周囲の環境（気体、液体など）と接触して起こる化学反応により溶出や、腐食生成物（さび）が発生する現象のことです。

具体例として、もっとも身近な金属である鉄の腐食について説明します。鉄は金・銀・銅などと違い、自然界に単体で存在せず、他の物質と結合して存在しています。特に酸素や硫黄との結合性が強く、多くは酸化鉄(FeO、Fe₂O₃、Fe₃O₄)や硫化鉄(FeS、Fe₂S₃、FeS₂)の形で存在します。

一方、鉄(Fe)は加工性が良く、適度な強度を有していることから様々な用途で利用されます。そこで、現代の製鉄法では鉄鉱石（赤鉄鉱、褐鉄鉱、磁鉄鉱などの酸化鉄）を原料として、酸素を取り除くことで鉄を得ていますが、一般には炭素を含有した炭素鋼として利用されます。いずれにしても、自然界に存在しないものを人工的に作りかえて利用しているのです。

そのため、鉄は大気中に放置すると常に元の状態である酸化鉄に戻る作用が働きます。この酸化作用（さびの発生）が、まさに腐食現象そのもので、鉄自体ではこれを防ぐことはできません。

次に錆びない金属として有名なステンレスですが、この金属は鉄にクロム(Cr)とニッケル(Ni)を混ぜ合わせた合金で、クロムが大気中の酸素と結合してできる酸化皮膜が不動態皮膜（非常に安定しているためこの皮膜より下層の金属の酸化を防ぐ）となり錆びの発生を防ぐとともに、ニッケルの添加で酸に対する耐食性を高めています。

チタン(Ti)はクロムと同様に非常に安定した酸化皮膜（不動態皮膜）を形成し、金・白金と同等の耐食性を持ちます。

サッシや門扉に多用されているアルミニウム(Al)も大気中で安定した酸化皮膜を形成しますが、この金属を酸性溶液に浸し、電解処理により人工的に酸化皮膜を形成する処理法が陽極酸化処理です。この処理の一種でやかん、弁当箱で有名なのが（少し古いですが）アルマイト処理です。陽極酸化処理により酸化皮膜の膜厚を調整し、より安定した保護皮膜を作っています。

余談となりますが、酸化皮膜の膜厚を調整することで皮膜の色が変化することから、チタンやアルミニウムの製品には塗装の代わりに酸化被膜による発色が多用されるようになってきています。

次回は当社の皮膜が採用される工業分野（使用環境が過酷）での耐腐食性・耐薬品性皮膜の適用についてご紹介します。



チタンの陽極酸化処理による発色例

● 会社概要

社 名	トーカロ株式会社 TOCALO Co.,Ltd.
設 立	昭和26年7月
所在地（本社）	〒658-0013 神戸市東灘区深江北町四丁目13番4号
資本金	26億5,882万3千円
従業員数	単独 510名 連結 802名

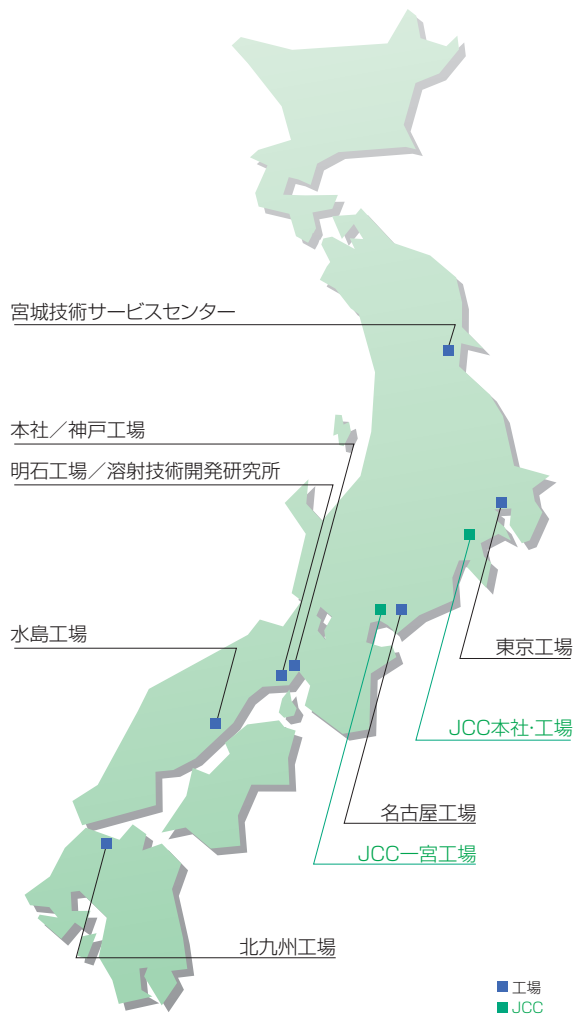
● 子会社・関連会社

日 本	日本コーティングセンター株式会社(JCC) 〒228-0002 神奈川県座間市小松原一丁目43番34号
中 国	東華隆（広州）表面改質技術有限公司 中国広東省広州市
中 国	東賀隆（昆山）電子有限公司 中国江蘇省昆山市
台 湾	漢泰国際電子股份有限公司 台湾台南市仁徳区

■ 関連会社

タ イ	ナイス&トーカロ・タイランド株式会社 タイ王国チョンブリー県ムアンチョンブリー郡（アマタナコーン工業団地）
-----	--

● 事業所一覧



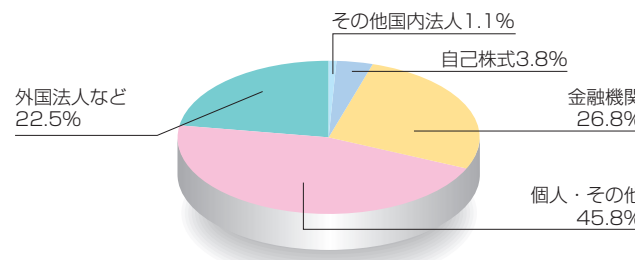
(注)営業所については表示しておりません。

● 役 員

地 位	氏 名	担当または主な職業
代表取締役社長	町垣 和夫	
常務取締役	竹澤 進	営業本部長
常務取締役	谷 和美	技術担当
常務取締役	木村 一郎	管理本部長兼経理部長
常務取締役	三船 法行	製造本部長、漢泰国際電子股份有限公司董事長
取締役	北秋 廣幸	営業副本部長、東華隆（広州）表面改質技術有限公司董事長
取締役	樽見 哲男	管理副本部長兼総務部長
取締役	久野 博史	明石工場長
取締役	黒木 信之	東賀隆（昆山）電子有限公司董事長
取締役	山崎 優	弁護士 梅田総合法律事務所パートナー
監査役（常勤）	岡 隆	
監査役（常勤）	藤田 健三	
監査役	日下 敏彦	税理士 税理士法人日下事務所代表社員
監査役	四井 賢一	税理士

(注) 1. 取締役山崎優氏は、会社法に基づく社外取締役であり、株式会社東京証券取引所の有価証券上場規程第436条の2に規定する独立役員であります。
2. 監査役日下敏彦氏、四井賢一氏は会社法に基づく社外監査役であり、株式会社東京証券取引所の有価証券上場規程第436条の2に規定する独立役員であります。

●所有者別株式数比率



● 株式の状況

発行可能株式総数	40,960,000株
発行済株式の総数	15,800,000株 (内、自己株式600,918株)
株主数	5,483名

大株主

株 主 名	持株数（千株）
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	1,432
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	955
トーカロ従業員持株会	886
トーカロ株式会社	600
ビービーエチ フォー ファイデリティー ロー プライズド ストック ファンド（プリンシパル オール セクター サポートフォリオ）	560
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン エス エル オムニバス アカUNT	485
中平 晃	443
廣瀬 眞理子	353
ビービーエイチルクス ファイデリティ フアuns ジヤパン アドバンテージ	272
西條 久美子	259

●地域別株式数比率

